

久留米工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	英語2
科目基礎情報						
科目番号	2E08		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 4		
開設学科	電気電子工学科		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	前期:4 後期:4		
教科書/教材	Revised Polestar English Communication II (数研出版)、Revised Polestar English Communication ナビゲーションノート (数研出版)、Revised Polestar English Communication ワークブック Standard (数研出版)、フェイスバレット英単語・熟語コーパス 3000 (東京書籍)					
担当教員	安部 規子					
到達目標						
1. 英文の構造を正確に理解する力と、語彙を増やし、やや高度な英文を講読する力を養うとともに、基本的な英語で、自ら表現できるようになる。 2. 1年時に学習した英文法の基礎を確認し、さらに高度な文法を理解する。 3. 幅広い分野の文章を読み、理解し、考察することによって、コミュニケーションに不可欠な思考力や洞察力を発展させる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
英語表現	1年次に学習した語彙を使用して、英語で表現できる。		中学で学習した語彙を使用して、英語で表現できる。		中学で学習した語彙を使用して、英語で表現できない。	
文法	2年次で学習した英文法を理解している。		1年次で学習した英文法を理解している。		1年次で学習した英文法を理解していない。	
読解	文章を読んで、内容について自分の意見を持つことができる。		文章を読んで、内容を理解することができる。		文章を読んで、内容を理解することができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	英語1や、英語表現1で学習した内容を基に、さらに進展させた高度な英語表現の学習等の授業を通して、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの四技能をバランスよく発展させる。					
授業の進め方・方法	授業では、1年時に学習した英文法を確認しながら教科書を読み、さらに高度な表現を理解していく。授業は、教科書に沿ってすすめる。適宜、小テスト、課題レポートを課す。計画進度は各レッスンの目的や活動の状況等に応じて変わることがある。					
注意点	(1) 点数配分：中間試験と定期試験で70%、小テストと課題で30%とする。 (2) 評価基準：60点以上を合格とする。 (3) 再試：課題等において問題がない場合、再試を行うことがある。状況に応じて再試を課題に変更する場合がある。 (4) 事前学習：次の授業で学習する範囲をナビゲーションノートを使って予習しておくこと。 英和辞書（書籍の辞書、電子辞書）を必ず持参してください。					
授業の属性・履修上の区分						
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション		授業内容を把握し、学習計画を立てる	
		2週	Lesson 1: Japan Through Foreign Eyes		完了不定詞、to-不定詞の受動態、助動詞+have+過去分詞	
		3週	Lesson 1: Japan Through Foreign Eyes		完了不定詞、to-不定詞の受動態、助動詞+have+過去分詞	
		4週	Lesson 2: Universal Design—Making Everyone Safer and Happier		前置詞と関係代名詞、形式目的語 it	
		5週	Lesson 2: Universal Design—Making Everyone Safer and Happier		前置詞と関係代名詞、形式目的語 it	
		6週	Lesson 3: Table for Two—Helping Others as You Eat		関係代名詞の継続用法、関係副詞の継続用法、進行形の受動態 (be+being+過去分詞)	
		7週	Lesson 3: Table for Two—Helping Others as You Eat		関係代名詞の継続用法、関係副詞の継続用法、進行形の受動態 (be+being+過去分詞)	
		8週	中間試験		これまでの学習内容の復習	
	2ndQ	9週	Lesson 4: The Story of the Ertugrul		完了形の分詞構文、what+(little/few)+名詞、未来完了形	
		10週	Lesson 4: The Story of the Ertugrul		完了形の分詞構文、what+(little/few)+名詞、未来完了形	
		11週	Lesson 4: The Story of the Ertugrul		完了形の分詞構文、what+(little/few)+名詞、未来完了形	
		12週	Lesson 5: Let's Stop Saying "That's Impossible"		句や節を受けるwhich, be+to-不定詞	
		13週	Lesson 5: Let's Stop Saying "That's Impossible"		句や節を受けるwhich, be+to-不定詞	
		14週	Lesson 5: Let's Stop Saying "That's Impossible"		句や節を受けるwhich, be+to-不定詞	
		15週	成績確認と復習		成績を確認しこれまでの内容を復習する	
		16週				
後期	3rdQ	1週	Lesson 6: The Miracle of Curitiba		複合関係詞、S+V (使役動詞) +O+C (過去分詞)	
		2週	Lesson 6: The Miracle of Curitiba		複合関係詞、S+V (使役動詞) +O+C (過去分詞)	
		3週	Lesson 6: The Miracle of Curitiba		複合関係詞、S+V (使役動詞) +O+C (過去分詞)	
		4週	Lesson 7: Rakugo in English		so/neither+(助)動詞+主語, as if	
		5週	Lesson 7: Rakugo in English		so/neither+(助)動詞+主語, as if	

		6週	Lesson 7:Rakugo in English	so/neither+(助)動詞+主語, as if
		7週	復習と中間試験	これまでの学習事項の復習
		8週	Lesson 8: Nelson Mandela and the Springboks	関係代名詞の継続用法(～+of which)、仮定法現在、結果を表すto-不定詞
	4thQ	9週	Lesson 8: Nelson Mandela and the Springboks	関係代名詞の継続用法(～+of which)、仮定法現在、結果を表すto-不定詞
		10週	Lesson 9: The Most Advanced Water—"NEWater"	過去分詞の分詞構文、いろいろな仮定法
		11週	Lesson 9:The Most Advanced Water—"NEWater"	過去分詞の分詞構文、いろいろな仮定法
		12週	Lesson 9:The Most Advanced Water—"NEWater"	過去分詞の分詞構文、いろいろな仮定法
		13週	Lesson 10: Less Is More	主語の省略、付帯状況のwith、関係詞節中に他の節を含む場合
		14週	Lesson 10: Less Is More	主語の省略、付帯状況のwith、関係詞節中に他の節を含む場合
		15週	成績確認と復習	成績を確認し復習する
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	2	前2,後7
			明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	2	前3,後8
			中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	2	前4,後9
			中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	2	前5,後10
		英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	2	前6,後11
			日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	2	前7,後12
			説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	2	後13,後14
			平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	2	後4,後14
			日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	2	前2,前8,後14
			母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	2	前3,前9,後14
			実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	2	前4,前10
		英語運用能力向上のための学習	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	2	前5,前11
			英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	2	前6,前12
			英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	2	前7,前13
			母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	2	前8,前14
			関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	2	前9,前15
			関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	2	前10,前16
			関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	2	前12,後1
			英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	2	前13,後1,後2
			実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	2	前14,後3
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	2	前15,後4
			他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	2	後2,後5
			他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	2	後3,後6
			日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	2	後4,後7

評価割合

	試験	小テスト・課題					合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100

基礎的能力	70	30	0	0	0	0	100
專門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0